

平成23年度 事業報告書

自 平成23年 4月 1日
至 平成24年 3月31日

学校法人 尚美学園

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災において被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

本学園では平成 23 年度在学者、ご家族全員の無事が確認されましたが、家屋全壊 8 件、家屋半壊・一部損壊で 50 件ほどの被災状況が報告されました。これを受け、早期に被災者への学費減免措置を決定し、保護者、学生への迅速な連絡を通じて、状況を把握するとともに、経済的不安を軽減する策を講じました。震災の発生からすでに 1 年が過ぎましたが、避難生活を余儀なくされている学生・保護者が多数いらっしゃる状況は今も変わることがなく、被災者の多い尚美学園大学では、事務局に被災学生支援プロジェクトを立ち上げ、進学者、在学者支援を継続しています。

被災地、被害地では、大変大きな問題、課題が山積しておりますが、一日も早い復興、生活環境の改善を願ってやみません。

この未曾有の大災害により、社会的には、多くの高等教育機関で、平成 22 年度学位授与式・卒業式、そして平成 23 年度入学式までもが自粛という風潮の中、本学園は、学位授与・卒業の栄を得るにふさわしい努力をした学生諸氏への敬意の表明、今後の日本を支える原動力となることを期待し、祝典的要素を抑えつつ、学位授与式・卒業式を挙行了いたしました。

平成 23 年 4 月の新年度スタート時においても、被災地での復興作業は、その緒にもついていませんでしたが、本学園設置校のある東京都、埼玉県では、余震や原子力発電所事故の余波を懸念しつつも、公共交通機関、企業活動などが平常に向かったことに伴い、社会の一員である学生も、企業と同様にその時点での生活環境に適応し、平静に学業を進めることが重要であると判断し、当初の予定通り、入学式を挙行し、授業を開始しました。

被災地出身の学生の退学・入学辞退については、早期に学費減免等の支援策を決定したことなどもあり、極めて少ない状況でした。

夏季には、大学は、大口需要家として電力使用制限令の対象となったため、その節電対策として、教育課程の質的・量的要件を踏まえながらも学生の健康確保のため授業実施期間の短縮に取組み、専門学校においては、電気使用量の上限を定めて運用するなど最小限の電力使用を心がけることにより電力不足を乗り切りました。これらは、学生、保護者、教職員および本学園関係各位の理解と協力、努力があっただけで対応できたものと感謝しています。

I 法人の概況

1. 設置する学校・学部・学科等

(平成23年5月1日現在)

学校名	所在地 (電話番号)		学部・学科等			入学 定員	収容 定員	学生数	
尚美学園大学	川越キャンパス	埼玉県川越市 豊田町1-1-1 (049-246-2700)	修士	総合政策研究科	政策行政専攻	10人	20人	1年	12人
								2年	15人
								計	27人
			学士	総合政策学部	総合政策学科	180人	800人	1年	204人
								2年	231人
								3年	218人
								4年	266人
					計	919人			
					ライフマネジメント学科	180人	640人	1年	216人
								2年	233人
	3年	203人							
	4年	156人							
	計	808人							
	上福岡キャンパス	埼玉県川越市 下松原655 (049-246-5251)	修士	芸術情報研究科	情報表現専攻	10人	20人	1年	10人
								2年	6人
								計	16人
				音楽表現専攻	10人	20人	1年	13人	
							2年	14人	
							計	27人	
			学士	芸術情報学部	情報表現学科	160人	700人	1年	226人
2年								195人	
音楽表現学科					140人	540人	3年	177人	
							4年	202人	
計	800人								
1年	162人								
2年	186人								
3年	144人								
4年	159人								
計	651人								
合 計						690人	2,740人	3,248人	

学校名	所在地 (電話番号)	学部・学科等		入学定員	収容定員
尚美ミュージックカレッジ専門学校	東京都文京区 本郷 4-15-9 (03-3814-8761)	音 楽 専 門 課 程	ピアノ学科	30 人	60 人
			電子オルガン学科	30 人	60 人
			管弦打楽器学科	120 人	240 人
			ポップ・スコア・ソングライター学科	40 人	40 人
			ヴォーカル学科	60 人	120 人
			プロミュージシャン学科	120 人	240 人
			アレンジ・作曲学科	80 人	160 人
			ミュージカル学科	60 人	120 人
			ダンス学科	60 人	120 人
			声優学科	100 人	200 人
			音響・映像学科	120 人	240 人
			ミュージックビジネス学科	120 人	240 人
			インターネットミュージック学科		40 人
			音楽総合アカデミー学科	80 人	360 人
合 計			1,020 人	2,240 人	

2. 役員概要

(1) 理事及び監事（理事の定員：9名、外部理事：うち3名）

（平成24年3月31日現在）

役職	氏名	担当職務	現職
理事長	松田 義幸		大学学長
副理事長	西岡 博之	財務担当	法人本部長
常任理事	渡辺 省吾	事務担当	法人本部副本部長
理事	野口 浩志	教学担当	専門学校学校長
理事（外部）	高橋 利幸	学校運営担当	音楽家
理事	坂本 邦彦	教学担当	大学総合政策学部長
理事	皆川 弘至	教学担当	大学副学長・芸術情報学部長
理事（外部）	高山 弘憲	渉外担当	会社役員
理事（外部）	潮木 守一	学校運営担当	筑波大学 大学研究センター 客員研究員
監事	込山 進		
監事	竹田 剛志		税理士

(2) 評議員（定員：19名）

平成24年3月31日現在、評議員の総数は19名。

3. 教職員の概況

教職員数(人)

（平成23年5月1日現在）

区分	大 学		専門学校		計
	教員	職員	教員	職員	
本 務	86	72	35	71	264
兼 務	264	0	281	1	546
合計人数	350	72	316	72	810

4. 学校法人の沿革

1926 (大正 15) 年	音楽家赤松直氏 私塾「尚美音楽院」を開設
1954 (昭和 29) 年	音大受験科開設
1959 (昭和 34) 年	尚美高等音楽学園各種学校許可受領
1967 (昭和 42) 年	学校法人尚美高等音楽学園として認可
1972 (昭和 47) 年	学校法人尚美学園尚美高等音楽学院に改称
1974 (昭和 49) 年	財団法人音楽教育研究所が本学園に移管
1976 (昭和 51) 年	専修学校制度の発足に基づき、尚美高等音楽学院、専門学校認可 ディプロマコース開設
1981 (昭和 56) 年	尚美音楽短期大学開学 (音楽学科・音楽情報学科)
1983 (昭和 58) 年	尚美高等音楽学院に音楽音響マスコミ専門課程設置 財団法人日本音楽教育文化振興会設立 (財団法人音楽教育研究所を改組)
1984 (昭和 59) 年	東京音楽音響マスコミ専門学院を設置
1985 (昭和 60) 年	尚美高等音楽学院を「東京コンセルヴァトアール尚美」に改称 東京音楽音響マスコミ専門学院を「東京音楽音響ビジネス専門学院」に改称
1986 (昭和 61) 年	尚美音楽短期大学を「尚美学園短期大学」に改称 (音楽ビジネス学科開設)
1989 (平成 1) 年	東京音楽音響ビジネス専門学院を「東京音楽音響ビジネス専門学校」に改称
1990 (平成 2) 年	尚美学園短期大学に情報コミュニケーション学科開設 皇太子殿下、尚美学園バリオホールに行啓、音楽会を鑑賞
1991 (平成 3) 年	東京コンセルヴァトアール尚美と東京音楽音響ビジネス専門学校を統合
1998 (平成 10) 年	東京コンセルヴァトアール尚美を「専門学校東京ミュージックアンドメディア アーツ尚美」に改称
2000 (平成 12) 年	尚美学園大学を開学 (総合政策学部・芸術情報学部) アメリカ・南カリフォルニア大学 (USC) シネマ・テレビジョン学部と提携 フジテレビジョンフォーラムにて SHOBI&USC 提携記念「国際映画放送カン ファレンス 2000」を開催
2003 (平成 15) 年	専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美 新本館完成
2004 (平成 16) 年	尚美学園大学大学院総合政策研究科 開設
2006 (平成 18) 年	尚美学園大学大学院芸術情報研究科 開設
2007 (平成 19) 年	尚美学園大学総合政策学部ライフマネジメント学科 開設
2010 (平成 22) 年	専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美を「尚美ミュージックカ レッジ専門学校」に改称
2013 (平成 25) 年	尚美学園大学上福岡キャンパスを現在の川越キャンパスに統合 (予定)

II 事業の概要

当年度の事業の概要

大震災により、日本の経済は大きな打撃を受けた。特に東北、北関東では、企業活動の拠点のみならず、個人の生活基盤の喪失や損壊によるダメージが大きく、日本社会の中長期的な課題として位置づけられるに至っている。復興のための特需が期待されるものの、復興の道筋が見えない状況では、実効が現れるには相当の時間を要すると思われる。

2010年は回復基調にあった経済指標も、大震災の影響から2011年には実質GDP成長率が $\Delta 0.7\%$ とマイナス成長、貿易収支の31年ぶりの赤字転落、消費者物価上昇率は3年連続マイナスとデフレ傾向は収束していないなど引き続き厳しい状況が続いている。国内外の社会及び経済情勢は、学生の進学動向、学生の就業にも大きな影響を及ぼすことはいまでもない。

私立学校は、引き続き少子化傾向の進展等による動態人口比率構成の劇的な変化に加え、被災地域から他地域への進学減少が著しく、本学園設置校においても、学生確保に一層厳しさが増してきている。一方、規制緩和措置の一環として、各学校法人の自己責任のもとに2012年度も9の大学が新設され、全国の国公私立大学は789校にも達する状況となっている。短期大学、専門学校数を考慮すると学生募集に更に大きく影響することはいまでもなく、生き残りのためには、学園の教育方針や教育の特長、育成する人材像、教育成果をより明らかにしていかなければならない状況にある。

本学園は、建学の精神『智と愛』を改めて見つめ直し、研究教育活動の根源とするとともに、専門学校教育、教員養成課程を原点として培ってきた「音楽と社会」、「人間と文化」といった教育テーマや短期大学を改組転換し4年制大学とする際に定めた「勇気・創造」といったテーマの再確認、再認識、専門学校においては、校名変更の際に検討した校名変更の主旨の徹底を通じて、尚美学園の存在意義や価値を高め、中長期的な視野により、学園全体の方向性として、教育研究体制の充実を図るソフト面としての教育課程の充実、ハード面としての教育環境の点検・整備並びに本学の使命である音楽・メディア教育の振興と地域への貢献への取組みを行ってきた。

今後の本学園が対処すべき課題は、「自ら考え、行動できる人材の育成」が最重要かつ永久課題であるという認識のもと、これまでの音楽教育で培ってきた経験と成果を礎に、常に時代に適合した感覚を研ぎ澄まし、さらなる教育内容の変革、カリキュラムの精査、能力開発プログラム等の研鑽を通じて、人材の輩出と学園づくりに努めていく所存である。

尚美学園大学においては、平成20年度から取組みをはじめた教育改革の途上にある。教育組織としての学部学科改革への取組みに加え、教学役職者のミッションの明確化などを通じて改革を促進すべく取組みを行っているが、実施・実現には時間を要してしまっている。昨年度も報告を行ったが、「教育プログラムのスリム化・充実を通じた募集状況の改善」、「UD（ユニバーシティ・ディベロップメント）」、「休退学率の改善」、「就職状況の改善」などの進捗はみられず、教育基盤の基礎的な要件を確立するための行動を継続しなければならない状況にある。

総合政策学部の改革方針が定まり、尚美の総合政策の考え方が整理されたこと、芸術情報学部内における学科間連携科目（コラボレーション科目）設置を足がかりに、大学全体の教育改革を推進していかなければならない。

平成25年度のキャンパス統合は、単なる施設の集約ではなく、教育システムの昇華に向けた特色

ある教育改革を実現していく起点とし、学生募集面においても更に社会の信頼と信用を得られる存在になっていかなければならない。

尚美ミュージックカレッジ専門学校では、校名変更とともに明確に打ち出した3つの教育ポリシー（「パーソナル教育」「実践教育」「コラボレーション教育」）に基づき SHOBI の学生はこれができるという標準（SHOBI Standard）を備えた人材の育成に努め、第一線で活躍する講師陣とともに高品質な教育活動の実現を通じて、専門教育機関としての責務と更なる発展に取り組んでいる。

平成 24 年度は、本学園のあるべき姿、達成すべき目標を実現することを通じて、社会に役立つ学園として更なる位置づけを図りたい。

【尚美学園大学】

1. 当年度の事業の概要

平成 23 年度の学生募集は、全学部とも入学定員を満了し収容定員についても満たすことが出来た。

これは、これまでの尚美学園の実績が引き続き評価されていること、本学園の教育指針を適切に発信できたこと、大学後援会からも同会主催事業において、進学相談会に場を提供いただいたこと、日本ゲーム大賞などに見られるような学生諸氏の活躍などが、本学の存在を知らしめ、適正な入学者数を確保することにつながったものと考えている。

本学の教育研究は、対象や領域が複合的なため、高校生に理解しにくい点があるが、この点についても、他の教育機関、有識者と意見交換、高等学校で進路指導を担当されている先生を対象とした大学説明の機会などを通じて、表現・発信方法などに工夫を重ねている。

さらに、尚美学園の同窓生との連携、レスナーとの連携を通じた本学の魅力を伝えるチャネル開拓も進め、今後の学生募集に向けた対策を進めている。

厳しい社会背景を踏まえ、本学の教育研究のあり方、人材育成の方向性、教育手法の改善と充実など、教育改革にかかわる事項がその重要性を増しており、平成 25 年度からの新キャンパスでの教育研究と学生諸活動の活性化にむけた基盤を明確にすべき年度であったが、この点については、以下のように必ずしも十分とはいえない状況であった。平成 24 年度には、次年度に向けての教育研究展開に向けた一層の取組みが必要となっている。

（1）改革の現状

改革の推進のため、自己点検・評価をもとに考察を進めることとしたが、各部門・担当責任者からの報告に基づく課題を改めて整理し提示したにとどまり、結果として、「入口 - 中 - 出口」の一体的改革には繋がらなかった。また、重要なポイントとしてあげた「大学・研究科・学部の役割とはなにか」、「社会からの期待とは何か」、「育成対象の学生とどのように向き合うか」については、大学全体では十分な議論に至らなかったが、意識改革の一環として、平成 24 年度入学者に対する「プレ・オリエンテーション」、「大学生活キックオフ」を開催し、引き続きその効果を検証し、教育課程、教育組織の変革を含む教育改革に引き続き注力することとしている。

（2）教育研究

総合政策学部への社会的要請の変化は著しく、尚美の総合政策とは、を模索してきたが、その原案がまとまり、平成 25 年度設置に向けた行動を開始した。

芸術情報においては、学部内で学科の垣根を越えたコラボレーション科目が数科目設置され、学科間の協働による実践的科目が始動した。しかし、これらの実施にあつては、尚美らしさと社会からの要請並びに育成する人材像の達成に関する検証がこれからであり、引き続き注力することとしている。

また、学校教育法の改正による情報公開にも積極的に取組み、教育研究をはじめ教育環境、運営環境などについて大学ホームページを通じて公表した。

(3) 教職員

本学の教育研究を促進するのは教職員であることはいうまでもなく、その発展的、向上的取組みのために、UD、FD、SD を定義してきたが、本年度の実施はFD (UD 的要素を含む) を1回と最小限にとどまっている。SD についても個々の業務担当者を、日本私立大学協会の研修、教職課程関連の研修会、カウンセリング・保健関連の研修会などに派遣し、基本的情報と新たな課題認識、解決を導くための研修活動にとどまっている。

(4) 学生対応

学生の気質変化は、単に「ゆとり教育」という一言で済ませるべきではなく、本学に学ぶ学生には、本学に入学する必然性があったとの認識を改めて醸成させなければならない。そのためにも入学試験受験時(高校生)から入学(大学生)への変化、入学後の学びを支える教育あり方について、『尚美スタンダード』を定めなければならないが、その根幹をなす活動であるFDの実質化が大きな課題となっている。

(5) 学生の進路選択

近年の社会情勢、社会からの大学への要請を踏まえ、学生を社会に送り出す義務を負っているが、教育研究と就職活動の時期的なぶつかり、教育研究と進路との整合性など多くの課題が引き続き残っている。

学びを基礎としながらも、視野を広げ、学んだ知識、取得した技能・姿勢を活かす方法を学生とともに考える機会を増やしていかなければならない。

(6) 教育環境、運営環境

ハード面での施設・設備の充実は、新キャンパスの構築により着手した。学生の学びを支え、充実した学生生活を送るために必要なソフト面での教育課程は、全員ゼミ化の徹底が実施されたことにより、その実現に向けてスタートを切った。この他学生の経済的な支援としての奨学金情報提供、サークル活動支援などの充実を図り、大学全体として学生を育成していく基盤作りに取り組んだ年度となった。

総体的な課題に対する取組みは、以上の通りである。

2. その他の取組み

(1) 教育研究活動

- ①日本語スピーチコンテスト
- ②英語スピーチコンテスト
- ③総合政策学部 学生懸賞論文

(2) 学生諸活動

強化サークル

①剣道部

- ア. 第 39 回埼玉学生剣道新人戦大会・第 37 回埼玉女子学生剣道選手権大会（本学会場）
男子団体：優勝、男子個人敢闘賞
女子個人 3 位
- イ. 第 38 回関東女子学生剣道優勝大会
女子団体：ベスト 16（全日本女子学生剣道優勝大会出場決定一初）
- ウ. 第 30 回全日本女子学生剣道優勝大会（春日井市総合体育館）
初出場・1 回戦突破
- エ. 第 44 回埼玉学生剣道優勝大会・第 7 回埼玉女子学生剣道優勝大会（本学会場）
男子個人：敢闘賞
女子団体：3 位、女子個人準優勝、3 位

②サッカー部（男子）

TOP チーム

- ア. 埼玉県大学サッカーリーグ 1 部 3 位
- イ. 2011 年度総理大臣杯埼玉県予選 ベスト 4
- ウ. 平成 23 年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会 準優勝
- エ. 2011 年国体 埼玉県代表選手 1 名選出

クラブ フェニックス

- ア. 平成 23 年度埼玉県社会人サッカー連盟会長杯 ベスト 4
- イ. 平成 23 年度社会人県 3 部リーグ（西部地区） 準優勝
入れ替え戦により 2 部昇格
- ウ. 平成 23 年度川越市社会人サッカー市民体育大会 優勝

③サッカー部（女子）

- ア. 第 1 回関東学連 Liga 尾瀬大会優勝
- イ. 全日本大学女子サッカーつくばフェスティバル準優勝
- ウ. 第 33 回全日本女子サッカー選手権関東大会 ベスト 8
- エ. 第 25 回関東大学女子サッカーリーグ 6 位
- オ. 第 20 回全日本女子サッカー選手権 ベスト 16
- カ. 各県国体選抜選手 17 名
- キ. 全国大学女子サッカー地域対抗戦 東関東選抜 4 名選出

④女子硬式野球部

- ア. 関東女子硬式野球春季リーグ戦 優勝
- イ. 第 7 回全国女子硬式野球選手権大会 優勝、準優勝（2 チーム参加）
- ウ. 第 1 回大学選手権大会 準優勝
- エ. 関東女子硬式野球秋季リーグ戦 3 位

⑤バドミントン部

- ア. 関東学生バドミントン春季大会
男子シングル 3 位

女子ダブルス 3 位

イ. 関東学生バドミントン秋季大会

男子団体：3 部 3 位

女子団体：4 部優勝（3 部へ昇格）

ウ. 関東学生バドミントン新人選手権大会

男子団体 3 位、男子シングル 2 位

女子団体ベスト 8、女子ダブルスベスト 8

エ. 埼玉県学生バドミントン選手権大会

男子シングルス優勝、2 位、4 位

女子シングルス優勝、2 位、4 位

女子ダブルス 3 位、ベスト 8

⑥チアダンス部

ア. USA Spirit Nations in Japan2011 ソングリーディング部門 4 位

イ. USA Novice Championship2011 2 位

ウ. USA Regional Competitions2012 ソングリーディング部門大学編成 1 位

⑦新・音楽集団「匠」

ア. 第 56 回埼玉県合唱連盟主催合唱祭出演

イ. 第 10 回定期演奏会開催

ウ. 富士見市音楽連盟からの依頼によるファミリーコンサート出演

コンクール・オーディション合格・受賞等

①「日本ゲーム大賞 2011」アマチュア部門 優秀賞

②第 4 回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール 2 位

③サントリーホール「パイプ・オルゴールのファンファーレ一般募集」採用

④日唄文化協会フレッシュコンサート奨励賞（管弦打楽器コース）

⑤富山県美術展 佳作受賞、二科展 入選

⑥車いすバスケットボール 2011 Spitfire Challenge 全日本代表選出

（3）交流事業

①韓国演奏旅行（明知専門大学、京福大学）

②川越市立野田中学校、埼玉県立川越南高等学校への留学生派遣

③東野高等学校公開授業

④クライストチャーチ姉妹校訪問（地震対応御礼、お見舞い）

⑤大林宣彦と語る高校生映像フェスティバル

⑥埼玉県海外派遣奨学生（1 年間:中国 1 名、短期:ニュージーランド 1 名）

⑦留学生社会見学

⑧被災地高等学校、保護者等訪問・ヒアリング

⑨企業交流会

（4）研究助成、補助金等

①科学研究費補助金 5 件

②学術研究助成基金助成金 2 件

- ③文部科学省 大学教育・学生支援推進事業 学生支援推進プログラム継続(3年計画の3年目)
- ④日本商工会議所 就職合同説明会開催事業補助金
- ⑤私立大学経常費補助金

3. 主な予算執行

(1) 学園・大学に関する的確な情報発信

教育交流、大学の教育情報等の発信、パブリシティ等
 募集資料、進学相談会、高校内ガイダンス等
 大学ホームページの運用

(2) 学園運営の視点に立ったキャンパス整備

学部学科等の教育環境整備の実施
 楽器更新、電子楽器更新
 スタジオ関連機器更新〔照明、HD機材、音響機材等〕
 教室環境メンテナンス〔プロジェクタ更新、修理〕
 ※この他に建築関連費用

(3) 教育の充実に向けた取組み

授業アンケート、モチベーションアップ施策〔プレ・オリエンテーション他〕
 卒業制作、演奏会《※1》、イベント《※2》参加等

《※1》 フィガロの結婚

音楽表現学科第9回定期演奏会
 バリー・ハリス レクチャー&コンサート
 日野皓正 特別講義
 小原孝 公開講座
 アレクサンダー・イェンナー 特別レッスン
 大島ミチル 特別講義
 音楽表現学科卒業演奏会 他

《※2》 東京ゲームショウ

奨学金費〔震災特別減免を含む〕
 トレーニングルーム運営委託
 学生団体活動助成〔学友会・強化サークル〕
 研究費
 韓国演奏旅行

(4) 教育研究の目標に定める『育成する人材像』に沿った社会に期待される人材の輩出

学内企業説明会・講座実施、学生スタッフ制度の導入 他

(5) 地域に貢献する学園作り

自治体、関連団体との共同事業
 高校生映像フェスティバル・合唱クリニック

(6) 卒業生・父母などステークホルダーに愛される学園づくり

大学後援会との連携事業〔地区別懇談会 他〕

学報発行・送付

(7) 健全な財務基盤を築く適切な費用感覚と適切な予算執行基準の確立

平成 24 年度からの予算執行手続きの変更を通じた費用の適正化行動を決定

(8) 大学運営の核となる教職員の育成と組織整備

研修参加費等

【尚美ミュージックカレッジ専門学校】

1. 当年度の事業の概要

(1) 教育方針について

本学では平成 22 年度に学校名を尚美ミュージックカレッジ専門学校に変更し、平成 19 年度より教育運営の柱としてきたパーソナル教育、実践教育、コラボレーション教育の「3 つの教育ポリシー」に加え、平成 22 年度はその具体的な取り組みとして「5 つの教育推進目標」を掲げ、教育内容の充実を図った。

平成 23 年度はこれら教育方針の確立に向けた大きなステップの年度と位置づけ、行催事、予算、カリキュラム他あらゆる教育活動について、この教育方針との整合を確認しながら推進した。また、授業・レッスン担当講師に理解の徹底を図った。

(2) 学生募集活動について

①ポップスコンテンポラリー学科の新設

平成 23 年度にポップスコンテンポラリー学科を新設し、高度な演奏技術を有する学生を確保し、音楽業界で即戦力となり得るソリストを育成、輩出することを目標とした。これにより、本学のブランドイメージの拡大に取り組んだ。

②学生数の状況

平成 23 年度文部科学省の学校基本調査によると、全国で専修学校数は前年度より 196 校減少し 3,115 校、専修学校生徒数は前年度より 22,479 名減少し 615,418 名であった。東京都では専修学校数は 15 校減少し 431 校、専修学校生徒数は 780 名増加し 142,547 名で 2 年連続の増加となった。

本格的な少子高齢化の時代に加え、東日本大震災の影響もあって、専門学校をとりまく環境は厳しさを増す中、本学では平成 23 年度の入学者数は前年度より増加した。

(3) 教育環境の整備について

①新 5 号館の建築

老朽化した 6、7 号館を取り壊し、新 5 号館を建築した。アンサンブル用スタジオ及びパフォーマンススタジオを充実させた。教育機材も業界仕様の最新機材を設置した。

②バリオホールの調光卓の更新

現在業界で一般的に使用されている照明装置を導入することで、より実践的な授業を行うことができるようになった。

③電気工事・LAN 工事

学務室の電気容量増設のための幹線・コンセント工事を行った。また、学生の就職バックアップ及び留学生対応を充実させるため、キャリアセンターと国際交流センターの部屋の拡充に伴う LAN 工事を行った。

④1号館エレベータのリニューアル

老朽化したエレベータの制御装置及び内装の改修工事を行った。

(4) JASRAC との著作権信託契約締結について

本学では、学校法人として初めて JASRAC（一般社団法人日本音楽著作権協会）と著作権信託契約を締結し、平成 24 年 2 月 1 日より音楽出版事業を開始した。

音楽出版権を管理する最初の作品は、本学の学内オーディションでグランプリを獲得し昨年デビューした田中ミリのファーストミニアルバム『魔法』（平成 23 年 6 月 8 日発売／レーベル：春日組）の収録曲、同じく学内オーディションで選ばれた女性ヴォーカリストのコンピレーションアルバム『みちしるべ』（平成 23 年 12 月 7 日発売／レーベル：春日組）に収録されたオリジナル曲 5 曲である。

本学では以前よりエンタテインメントプロデュース部門（ミュージックビジネス学科、音響・映像学科）及び 4 年制の音楽総合アカデミー学科にビジネス著作権検定の資格取得を目標とした「音楽著作権」をカリキュラムに設け、学生の著作権への理解と意識の向上に努めている。

(5) 東日本大震災に関する対応について

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴い、本学では平成 23 年度に次の対応を行った。

①当該地震により被害を受けた新入生及び在学生に対する授業料等の免除、留学生に対する学費の遅延や休学を認める等の特別措置を講じた。

②夏期には節電対策の一環として前期の授業期間を短縮し夏季休暇を 2 週間早め、後期に授業の不足分を調整する等の対策を行った。

このような中、被災専門学生に対し政府による初の就学支援が認められ授業料の 3 分の 2 の補助が行われた。専修・各種学校校舎等の施設・設備等の復旧に要する工事等に対する補助は阪神・淡路大震災に続いて東日本大震災でも認められたが、学生・生徒に対する就学支援は専修・各種学校に対して初めて認められた。

2. 主な予算執行

平成 23 年度は、「SHOBI スタンダード」の確立に向けた教育方針に基づく事業を展開した。

(1) 教育の向上

各学科が育成する人物像をより明確にし、カリキュラム、科目、教員を見直し、外部から見ても分かりやすく、魅力ある学科の構築を推進した。

①特別講師による最先端教育

音楽・パフォーマンス・エンタテインメントプロデュースの各分野でオピニオンリーダーとして名高い方を学校の特別講師として委嘱し、最先端の知識、スキル、情報の習得するための授業・レッスン・特別講座を実施した。

②特別講座・特別レッスン・優秀者指導の実施

カリキュラム科目以外に業界で必要な知識・技術を習得するための特別講座、特別レッスンを実施した。

各学科の優秀者に対して、レベルの向上を図るための特別指導を実施した。

③音楽業界フォーラムの開催

音楽ビジネス業界のフォーラムを開催し、業界の視野を広げるとともに、これからの音楽界に

向けて情報を発信すべく 23 年度も開催した。

新時代のビジネスフォーラム Vol.6 平成 23 年 11 月 3 日

「これからのミュージックビジネスにおいて、必要とされる人材とは」

④教育成果の発表・発信

学科、学生の教育成果を公演、発表会、イベント、イベント制作、メディア制作等として学内、学外に広く発表、発信した。全学科の年間合計イベント数は、年度の途中で外部から依頼されたイベントも含め 80 本。数多くのイベントで学生の満足度とプロ意識の向上を図った。

⑤SHOBI インターネットテレビの配信

学生の演奏会・作品・プロフィールや体験入学の様子等を配信して、業界も含めた外部へ広く公開して、学生のプレゼンテーションと学校の PR の拡大を図った。

⑥デビューセンターを活用したメジャーデビュープロデュース

デビューセンターが運営する学内オーディション「S-1」開催と在校生デビュープロデュースを実施した。

「S-1」オーディションを 2 回実施した。

最優秀者は、春期 該当なし、

秋期 中屋美彩紀 プロミュージシャン学科 2 年生

(平成 24 年 9 月 CD リリース予定)

⑦ボランティアセンターを活用した演奏会・発表会

学生のボランティア精神の養成を図るため、ボランティアセンターを活用した地域・企業と提携した演奏会・発表会を実施した。

ア. 文京区シビックコンサート

イ. 文京シビックセンターリサイクルフリマ演奏

ウ. ラクーア演奏会

エ. 文京朝顔ほおずき市運営協力・演奏

オ. 文京カレッジコンサート参加

カ. 本郷消防署防火の集い参画

キ. 湯島梅祭り出演

ク. しおみ幼稚園演奏会

ケ. 企業提携演奏会等 6 件

(2) 学生支援

①奨学金

新入特待生、新入ユニーク奨学生、新入社会人奨学生、新入留学生奨学生、進級特待生、進級勉学奨学生、東日本大震災被災者特別措置（新入生・在校生）

②クラス単位での研究、懇親のためのクラス運営費

③資料室整備、ナクソスミュージックライブラリー契約

④キャリアセンターの社会資格・就業支援プログラム講座等の運営

⑤国際交流センター運営

⑥在校生のための福利厚生

(3) 教育環境の整備・充実

①施設

- ア. 新5号館：建築
- イ. 本館：遮光フィルム導入
- ウ. 本館：バリオホール照明設備更新
- エ. 1号館：エレベーターリニューアル

②教育機器

- ア. M602 教室：パソコン 20 台更新
- イ. 3号館3部屋：レコーディング用機材
- ウ. 本館スタジオC：ライブスタジオ機材
- エ. M502、M507、M508 教室：コンピュータソフト更新
- オ. 管楽器、打楽器の更新
- カ. スタジオブーカ、M402、4101 教室：電子ピアノ更新
- キ. 2号館各教室：アンプのオーバーホール 他

③ネットワークシステムの維持、整備

- サーバホスティング、インターネットサービス、サーバ保守、基幹ネットワーク保守、LAN運用保守、教室PCメンテナンス、コンピュータウイルス対策、教職員PC更新 他

④管理維持

- 電気、水道、ガス、施設保守、清掃委託、運搬、教育用・事務用消耗品 等

(4) 広報・学生募集

(5) 教職員研修

(6) 諸活動報告

①コンクール入賞抜粋

- ア. 第21回日本クラシック音楽コンクール全国大会 入選 ピアノ
(音楽総合アカデミー学科鍵盤コース3年生)
- イ. 第21回日本クラシック音楽コンクール予選 合格 フルート
(音楽総合アカデミー学科管弦打楽器コース1年生)
(音楽総合アカデミー学科管弦打楽器コース3年生2名)
(管弦打楽器学科 本科1年生2名)
- ウ. 東京国際芸術協会管弦楽団団員オーディション 合格 打楽器
(音楽総合アカデミー学科管弦打楽器コース4年生)
- エ. 第21回日本クラシック音楽コンクール第3位 トロンボーン
(コンセルヴァトアールディプロマ科管打楽器専攻1年生)
- オ. 第17回KOB E 国際音楽コンクール 優秀賞 打楽器
(コンセルヴァトアールディプロマ科管打楽器専攻1年生)

②就職先抜粋

- ア. 陸上自衛隊
- イ. サンリオ・ピューロランド
- ウ. ユニバーサル・スタジオ・ジャパン
- エ. 演劇集団キャラメルボックス

- オ. アイビーカンパニー 登録ダンサー
- カ. tearbridge production (ティアブリッジプロダクション) avex 系列 登録ダンサー
- キ. マウスプロモーション 研修員
- ク. ふろだくしょんバオブア 研修員
- ケ. シグマ・セブン 研修員
- コ. ヴォーカル(株) (俳優事務所)
- サ. (株)スターダストプロモーション
- シ. (株)ポニーキャニオンアーティスト
- ス. (株)シンコーミュージック・エンタテイメント
- セ. (株)シブヤテレビジョン
- ソ. (株)総合舞台
- タ. (株)シアターサポート
- チ. 東京舞台照明
- ツ. (株)ルールブック
- テ. クリーク・アンド・リバー社
- ト. (株)村上音楽事務所

③デビュー抜粋

- ア. **OUT OF TUNE RECORDS** よりリリースされたエレクトリックダンスミュージック
コンピレーションアルバム「**NIGHT CRUISING**」に楽曲提供
- イ. 映画「**Lost Harmony**」楽曲提供
この映画が平成 24 年 5 月 9 日にマートルビーチ国際映画祭ベストスリラー賞受賞
- ウ. 田中ミリ ヴォーカル学科 (2010 年度卒業)
ファーストアルバム「魔法」平成 23 年 6 月 8 日リリース
- エ. 吉田知代
ChoRo
清水和喜
yukko
Risa
ピアノ学科・プロミュージシャン学科・ヴォーカル学科の 2 年生
5 組のヴォーカリストによるコンピレーションアルバム「道標 (みちしるべ)」
平成 23 年 12 月 7 日デビューセンターよりリリース

Ⅲ 設備の状況

1. 主要な設備の状況

(平成24年3月31日現在)

区 分		面積又は数量	帳簿価格
土地	大学	152,850.50 m ²	6,420 百万円
	専門学校	2,903.30 m ²	4,421 百万円
	計	155,753.80 m ²	10,841 百万円
建物	大学	37,946.61 m ²	6,650 百万円
	専門学校	15,199.19 m ²	5,091 百万円
	計	53,145.80 m ²	11,741 百万円
教具校具及び備品	大学	3,904 点	290 百万円
	専門学校	3,077 点	1,572 百万円
	計	6,981 点	1,862 百万円
図書	大学	172,358 点	624 百万円
	専門学校	12,699 点	52 百万円
	計	185,057 点	676 百万円

IV 財務の概況

1. 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	
科目	当年度
学生生徒等納付金収入	5,111,334
手数料収入	28,705
寄付金収入	78,450
補助金収入	265,018
資産運用収入	20,298
資産売却収入	217,438
事業収入	15,628
雑収入	105,643
前受金収入	3,006,607
その他の収入	1,109,442
資金収入調整勘定	△ 3,293,270
前年度繰越支払資金	5,851,376
収入の部合計	12,516,672
支出の部	
人件費支出	2,699,286
教育研究経費支出	1,297,887
管理経費支出	910,909
施設関係支出	1,231,155
設備関係支出	121,153
資産運用支出	73,886
その他の支出	350,819
資金支出調整勘定	△ 264,299
次年度繰越支払資金	6,095,873
支出の部合計	12,516,672

2. 消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	
科目	当年度
学生生徒等納付金	5,111,334
手数料	28,705
寄付金	83,872
補助金	265,018
資産運用収入	20,298
資産売却差額	0
事業収入	15,628
雑収入	105,643
帰属収入合計	5,630,499
基本金組入額合計	△ 37,336
消費収入の部合計	5,593,163
消費支出の部	
人件費	2,654,986
教育研究経費	1,826,259
管理経費	974,185
資産処分差額	4,408
徴収不能引当金繰入額	38,914
消費支出の部合計	5,498,755
当年度消費収入超過額	94,407
当年度消費支出超過額	0
前年度繰越消費支出超過額	2,629,772
基本金取崩額	2,480
翌年度繰越消費支出超過額	2,532,884

3. 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部	
科 目	当年度末
固定資産	29,358,730
流動資産	6,400,752
資産の部合計	35,759,483
負債の部	
固定負債	487,901
流動負債	3,352,882
負債の部合計	3,840,783
基本金の部	
第1号基本金	33,902,709
第2号基本金	101,875
第4号基本金	447,000
基本金の部合計	34,451,584
消費収支差額の部	
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,532,884
消費収支差額の部合計	△ 2,532,884
負債の部,基本金の部及び消費収支差額の部合計	35,759,483